

①吉田地区の現状　－人口・拠点施設

－担い手組織

人口：930人
高齢化率：49.357%（令和元年度）

拠点施設：吉田交流センター
商店：あり
学校：あり（吉田小学校・吉田中学校）
郵便局等の公共施設：あり
雲南市中心部への距離：
約20分（車移動）

吉田地区振興協議会

- ・地区計画の更新時期を迎えている
- ・子どもの見守り活動や、生涯学習等の活動に熱心
- ・地区内の各種団体と連携し、攻めの地域づくりを推進する地域協議会「よしだ円卓会議」を有する
- ・令和元年度から、近隣の他の4地区（民谷地区、田井地区、波多地区、入間地区）と連携して「山間地区の存続を考える会」を立ち上げ、厳しい山間地区を存続させていくために何をすべきか等について、意見交換を重ねている。

②吉田地区の課題

口昨年度に実施した住民アンケート結果等をもとに、新しい「地区計画」（5ヵ年）を検討し、「地区計画書」を作成してその内容を地区住民に周知し、次年度からの推進体制を検討することが、令和元年度の課題だった。

③支援状況

地区計画の検討支援、地区計画書の作成支援：

- ・吉田地区振興協議会の3部会合同会議、事務局会議等における地区計画の検討支援
- ・地区住民に計画内容を周知（全戸配布）するための地区計画書の企画・作成支援

地区計画の推進体制の検討支援：

- ・自主組織の事務局会議（自主組織会長・副会長も参加）において地区計画の推進体制の検討を支援

「山間地区の存続を考える会」（5地区合同勉強会）の運営支援：

- ・同会の進め方の検討支援、毎月の勉強会の運営支援

④成果見込み

5ヵ年の地区計画が完成

- ・大きく「福祉と安全」「人づくり」「活力創造」に整理された5ヵ年の地区計画が完成
- ・新たに「地域運営の担い手づくり」「高齢者の移動支援」「住民参加型の収益事業の創出」等のチャレンジングなテーマが盛り込まれた

地区計画書が完成し、全戸配布により住民が共有：

- ・過去5年の活動状況や、次の5ヵ年の取組み内容をわかりやすく記載した地区計画書が完成し、全戸配布により、地区内の住民がその内容を共有した

⑤残る課題

（1）5ヵ年のロードマップの作成

- ・地区計画推進の5ヵ年のロードマップづくりは、年度終盤に自主組織委員の改選時期を迎えたこともあり、十分な時間が取れず、議論があまり進まなかった。

（2）地域協議会「よしだ円卓会議」の枠組みの再整理

- ・産業振興等の「活力創造」の分野は、地区内他団体と結成している地域協議会「よしだ円卓会議」で進めることになっているが、活動活性化に向けて、この会議での議論がさらに必要

乗り越えるには？

ロードマップづくりについては、この作業の大切さや、ロードマップの検討方法をアドバイスした資料を作成し、関係者にお渡ししたので、この資料を参考に、次年度の早い時期に進められることを期待している。

「よしだ円卓会議」については、年度中に会長、副会長らと協議し、次年度のこの会議の進め方等について助言を行い、イメージを共有できたので、それを確実に実行されていくことを期待している。

総括

- ◆住民アンケート結果をしっかりと踏まえた、内容の濃い具体的な地区計画が完成し、地区計画書の配布によって住民が共有できたことはよかった。
- ◆それを一歩ずつ着実に推進していくためには、5ヵ年のロードマップに照らして、計画の進捗状況を年度ごとにきちんとチェックする習慣づけを、自主組織の中で確実にできるかが鍵を握られると思われる。